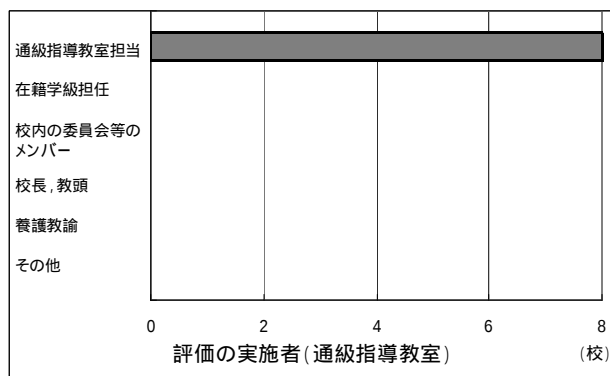
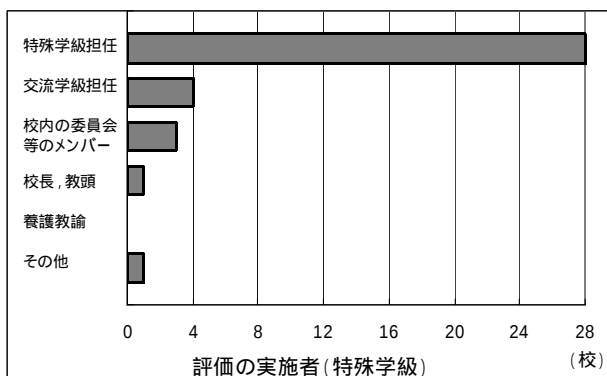
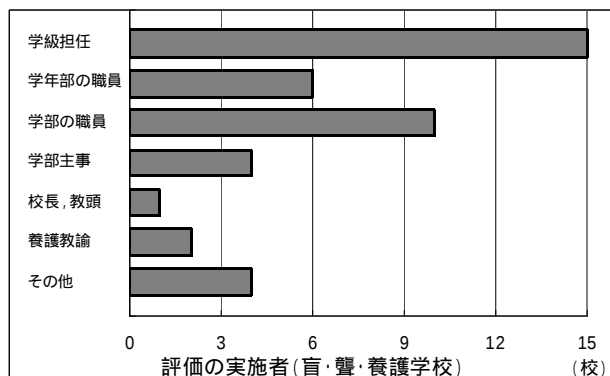


(4) 個別の指導計画の評価

評価の実施者

【問】個別の指導計画の評価をだれが行っていますか。（複数回答）

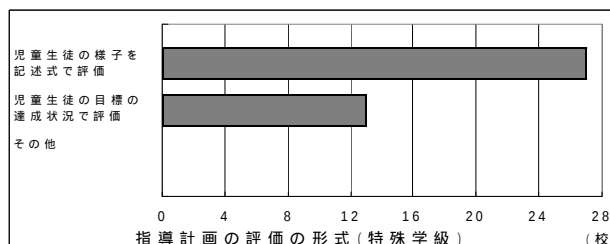
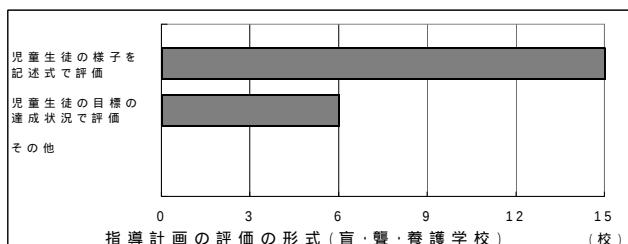
盲・聾・養護学校では学級担任を中心としながら、学部や学年部など、複数の教員で評価を行っている。その他として、自立活動専任、理学療法士や作業療法士と評価を行うという回答もあった。特殊学級、通級指導教室においては、担任あるいは担当者が一人で行うという回答が多い。客観的な評価を得るためには、複数の教員による評価を行うことが望ましいが、特殊学級と通級指導教室においては校内体制による評価が課題となっている。



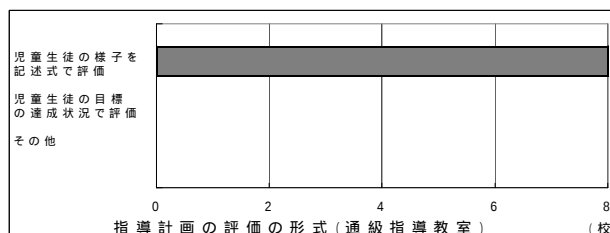
評価の方法

【問】児童生徒の学習の評価をどのような形で行っていますか。（複数回答）

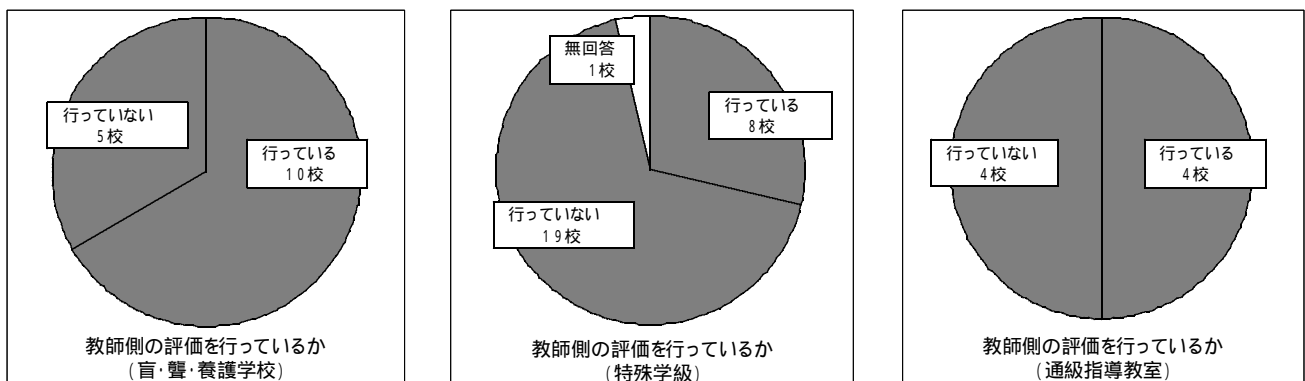
【問】教師側の評価（計画の妥当性等）を行っていますか。



児童生徒の学習の評価については、記述式で評価している学校が多いが、評価の観点を作成して、目標の達成状況で評価したり、記述式と併用したりする学校もある。記述式は、



評価を詳細に記述できる反面，記述する教員によって評価の観点が違ったり，抽象的な表現になったりしやすい。そこで，目標の達成状況で評価を行う方法についても積極的に取り組む必要がある。



指導者側の評価については，盲・聾・養護学校では評価を行っている学校が多いのに対して，特殊学級，通級指導教室では実施していない学校が多い。目標の達成状況が悪かった場合に，指導内容，指導方法，指導者の手だてなどを評価し，指導の改善を図っていくためにも，積極的に取り組む必要がある。

評価における工夫と課題

【問】よりよい授業づくりのために，どのような評価の工夫をしていますか。（自由記述）

ア 学習の評価に関するもの

- ・ 具体的な評価項目，評価の観点を設定する。
- ・ 児童生徒の課題を明確にする。
- ・ 単位時間や單元ごとの評価を指導計画改訂に生かす。
- ・ 同学年での相互参観と研修を行う。
- ・ 授業記録を詳述し，客観的な評価を得られるようにして複数の教員で評価する。
- ・ 毎日の学習活動を記録し，月末に領域・教科ごとに評価する。なるべく具体的な数値を入れ込む。
- ・ 指導の形態別に具体的で細かい観点や段階を設定する。
- ・ 児童生徒にも分かる達成表を作成する。
- ・ 振り返りカードを活用する。
- ・ ケース会を充実する。
- ・ 児童生徒の成長を保護者と確認しながら計画の妥当性を検討する。

イ 指導の評価に関するもの

- ・ 手だてや原因を具体的にした評価の仕方を工夫する。
- ・ 児童生徒の目標や行動に照らして教師の手だてを評価する。記録を充実する。
- ・ 複数教員による評価を行う。授業記録や授業反省を充実させ，次時の改善に生かす。チェックリストを活用する。
- ・ 職員同士が評価し合える雰囲気づくりをする。

回答の多くは、児童生徒の学習の評価に関するものであった。各学校においては、具体的な評価の観点や項目を設定したり、複数の教員や保護者と一緒に評価を行ったりするなどの評価の工夫がなされてきている。一方、指導者側の評価に関するものは少なく、授業改善に向けた取組を更に促していく必要がある。

(5) 当センターへの要望

【問】今後、個別の指導計画について、当センターから提供してほしい情報や、短期研修講座等で取り扱ってほしい内容等を御記入ください。（自由記述）

ア 個別の指導計画の作成に関する内容

- ・ 個別の指導計画の様式や作成マニュアル例を示してほしい。
- ・ 諸検査の実施・分析の方法や解釈について情報がほしい。
- ・ 実態把握の方法について情報を提供してほしい。
- ・ 目標を具体的に記述する方法を教えてほしい。
- ・ 短期研修講座で、個別の指導計画の作成や活用について学びたい。

イ 個別の指導計画の活用に関する内容

- ・ 先進校における個別の指導計画の活用について情報を得たい。
- ・ 個別の指導計画と授業との関連について事例を提供してほしい。

ウ 個別の指導計画の評価に関する内容

- ・ 具体的な評価の観点について資料を提供してほしい。
- ・ 先進校における評価の事例を知りたい。

要望として、個別の指導計画の作成に関する具体的手順や方法といった基礎的な内容から、授業での活用や評価といった応用的な内容まで、幅広い情報を求める回答が多い。これから作成する学校、すでに作成して活用の方向性を探る学校それぞれのニーズにこたえるために、具体的な作成例や活用例を示しながら、情報を提供していくことが求められている。

3 調査のまとめ

(1) 個別の指導計画の作成状況について

ア 個別の指導計画の作成に向けた取組

盲・聾・養護学校においては、すべての学校で個別の指導計画が作成されており、作成に当たっては学校内外の関係職員を含めた複数の関係者が関与していることが分かった。校内体制あるいは学部体制といった作成への取組が確立されていると考えられる。

特殊学級や通級指導教室においては、「作成中」、「作成していない」と回答した学校が53%という結果であった。その理由として、指導計画の書式や作成手順、内容項目などの基本的な情報が不足していることが考えられる。「作成している」という学校では、特殊学級担任あるいは通級指導教室担当者が一人で作成するという回答が多く、個別の指導計画作成委員会と

いった校内体制における作成への取組がみられていない。

以上のような結果から、個別の指導計画についての基本的な考え方を明らかにするとともに、作成に向けた校内のシステムづくり、作成手順、指導計画の内容などの基本的な情報を整理する必要がある。

イ 実態把握

実態把握での課題としては、「実態把握をする観点が分からない」、「専門的な情報を得にくい」、「諸検査の分析や解釈が不十分である」などの回答が多く、自由記述においても専門機関からの情報の提供や助言を求めるものがみられた。実際の指導に生かすためにはどのような情報を収集し、どのように個々の課題を明確化するかといった、具体的な視点を整理するとともに、諸検査結果の解釈等について、専門機関からの支援も必要である。

(2) 個別の指導計画の授業での活用、評価について

ア 個別の指導計画の授業での活用

盲・聾・養護学校、特殊学級、通級指導教室ともに、長期目標として1年間、短期目標として学期ごとの目標設定、評価を行っている。しかし、単元・題材ごとあるいは1単位時間ごとの目標を設定している学校は少なく、個別の指導計画を授業で活用するに当たって課題を抱えている。

実際に授業を行うに当たっては、個別の指導計画と全体指導計画を相互に関連付け、整合性をもたせる作業が必要となるが、その位置付けや手順が明確でないことが原因の一つとして考えられる。また、個別の指導計画の目標や内容が抽象的で具体性に乏しく、授業実践に結び付けにくいことも関係していると考えられる。

そこで、個別の指導計画と教育課程、全体指導計画との関連・位置付けを明確にするとともに、指導目標や学習内容を相互に関連付け、集団化・個別化していく手順を整理する必要がある。また、授業に結び付けやすくするための、個別の指導計画の目標設定や記述内容の在り方について明らかにすることが求められている。

イ 個別の指導計画の評価

個別の指導計画の評価については、目標設定のスパンで行っている場合が多い。そのため、年間や学期ごとの評価となり、単元や題材ごと、あるいは1単位時間ごとの評価を行うことが困難な状況である。積極的な評価、指導計画の修正・改善を行うために、個別の指導計画の目標を細分化・具体化し、授業レベルまで下ろす取組が求められている。

指導者側の評価については、実施していない学校が過半数である。実施している場合でも、具体的な観点を設定している学校は少なく、指導方法等の改善に結び付けることが困難であると考えられる。そこで、日々の授業の改善につながる個別の指導計画の評価の在り方について明らかにし、個別の指導計画と授業との間に、より密接な関連性をもたせることが必要である。